

How much

前号(50号)で皆さんに問いかけたのは、中一女子のさくらインコちゃんから同級生の権之助くんが届いた「さいきん、クラスでムシされている気がする。ちがうかなあ？」という携帯メールに対し、あなたが権之助くんだったら、どんな返信メールを出すか、40文字以内で作文してください、というものでした。多くの方から回答を寄せていただきましたので、いくつか紹介します。

「何かあったの？ぼくは気がつかなかったよ。明日、学校帰りにでも話を聞かせて。」

「お母さんがケーキを焼いたから、食べにくる？」

正解は「すぐに返事をしてやる」ということだったりして。きっと寂しいのだから。

同じことを小学生、大学生、男女共同参画推進員の年配の方々にやってもらいました。面白いことに、年齢に関係なく、以下のパターンの回答が現れます。

明日会って話を聞くよ。

今から電話してもいい？

そんなことはないと思うよ。

気にしすぎだよ。

本当かどうか皆に聞いてあげるよ。

仲のいい友達に本当かどうか聞いてみたら？

無視されてもいいじゃない。あなたは、あなた。私だけは違うからね。

なんで私にメールするの。

甘えてんじゃねえーよ。パーカ。

正解があるわけではありませんが、男女共同参画推進員さんに、の回答をされると(しかも、何人もいたりするので)ガッカリしたり、さもありませんと思ったりです。

そういえばこの間くんが言ってたおいしいたこ焼き屋さんがあるからそこで話そう。

これは、小学生男子の回答で、最後の読点まで入れてぴったり40文字。さくらインコちゃんには、メールの言葉の下に「誰かに会いたい」気持ちがあるのは間違いないことで、その気持ちにこたえてあげられるかどうか、そこが大事だと思います。その点、たこ焼きやケーキで誘えば、相手も気が楽になるでしょう。ちなみに、子どもたちに聞いてみると、「とにかくすぐに返事をもらえる」ことも評価が高いようです。また、中高生になれば、校外で男女が会うことは特別な間柄であることを意味するので、実際には会えないのだそうです。(なるほど。でも頑張れよ。)親や先生の立場であれば、言うことも違ってくるのでしょうかね。

蛇足でもうひとネタ。先日、ある農村で棚田の田植えイベントがあり、女性の留学生を連れて参加しました。彼女は、エコツーリズムを勉強しており、よい経験になるだろうと思ったからです。田植え作業が終わると、お昼ご飯は、地元婦人会が前の晩から仕込んだ山盛りのご馳走。これを、農家の座敷にあがり、地域の人と参加者が一緒に食べるのがなによりの楽しみ。地元の人にとっては、楽しく誇らしい時間です。焼酎も進みます。彼女も喜びました。

さて、お腹いっぱい食べ、お礼を言って家を後にしたとき、飲みすぎた農家の男性が彼女の背中に「How much」の声を投げつけたのです。酔った拳句の悪ふざけですが、地域づくりに携わっていて、超えさせることができないハードルを感じ愕然とする瞬間です。何度か似たような経験をしました。知的であること、紳士的であること。これがなければ、ツーリズムは成り立たないでしょう。・・・大橋巨泉を恨んでも仕方ないこと。農村をなんとかしなければなりません。How muchの皮を一度むいたところで、農を守り一生懸命に生活している人たちの心根に寄り添い、地域づくりをしていこうと思ったのでした。(彼女の聡明さに救われました)